

# 風土記について

風土記は、奈良時代初期(713年)につくられた地誌です。元明天皇の命令によって、国ごとにつくられました。

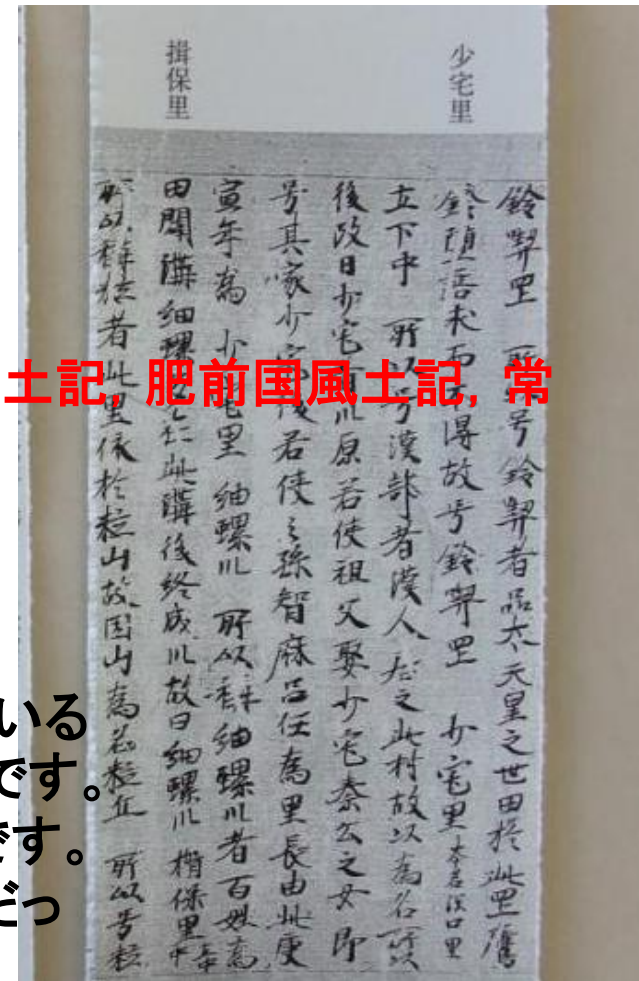
記されている5つの課題は、

- ①地名(縁起のよい字を用いて記すこと)
- ②地域の特産物
- ③土地の肥よきの状態
- ④地名の起源
- ⑤伝えられている話

現在残っている風土記は、出雲国風土記、播磨国風土記、肥前国風土記、常陸国風土記、豊後国風土記の5つです。

# 播磨国風土記について

播磨国風土記が他の風土記に比べて、忠実に答えているのは、土地の肥よきさ、地名の由来、土地に伝わる話です。風土記に記された播磨国内の地名は360以上だそうです。風土記がつくられた当時の播磨国は約10万人ぐらいだったといわれています。



(写真提供 文化財課)